

令和2年10月18日（日）、日本臨床発達心理士会茨城支部

令和2年度第1回公開講座（第1回資格更新研修会）が行われました。
今回は、新型コロナウイルスの影響により、Zoomウェビナーによるオンライン研修会となりました。

1 内 容 「自閉スペクトラム児と親とのかかわりあいを育む支援の充実
～ふれあいペアレントプログラムの概論編～」

講師：尾崎 康子先生（東京経営短期大学）

2 参加者 85名（臨床発達心理士65名，一般20名）

3 研修内容

- 「ふれあいペアレントプログラム」は、社会的コミュニケーション発達を促すプログラムとして開発された。
社会的コミュニケーションの発達の遅れを強くもっていると考えられるのが、自閉スペクトラム症（ASD）の子どもである。
そのため、ふれあいペアレントプログラムは、ASDの幼児（2～4歳）の保護者を対象としている。なお、ASDの診断がついていなくても適用は可能である。
- このプログラムの特徴は、「日常生活の自然な環境において親との相互的関わり合いを重ねることにより、社会的コミュニケーション発達を促す」というものである（発達論的アプローチ）。従来の行動療法的なペアレントトレーニングとは違いがある。
親子の関わりが持てるようになることを土台と考え、親をエンパワーメントすることが大切である。
- 社会的コミュニケーションの発達過程（対人的相互作用、二項的相互作用、三項的相互作用、共同注意、言葉の使用）を理解しておくことは、指導者として必要不可欠である。
「共同注意」は発達のターニングポイントであり、ASD児はこの獲得が目標となる。しかしながら、対象児が社会的コミュニケーション段階のどこに位置しているかにより親の関わり方（働きかけ）は変化する。スモールステップで目標を定め、成長を認めること（できたことを褒めること）が重要である。
- ふれあいペアレントプログラムのスケジュール（具体例）：「子どもの育て方」では「親が子どもの行動に合わせる」という視点が大切であり、4つの関わり方が基本となる。
また、自然な相互作用が促進される「親子ふれあい遊び」では、4つの原則が示されている。
- ふれあいペアレントプログラムの指導者になるためには、指導者養成セミナーを受講する必要がある。
詳細は、ふれあいペアレントプログラムのホームページを参照。
- * 今回は、「概論編」ということでしたが、来年度は実践のための研修会も予定したいと考えています。
「診断を受けた子どもの親に、子どもの育て方を教えること（早期診断と早期支援）」の必要性を改めて考える機会となりました。研修会の開催にあたり、ご尽力を賜りました皆様に、心から感謝申し上げます。

<次回研修会のお知らせ>

令和3年2月7日（日）午後

講師：宮本信也先生

開催形式：オンライン

詳細につきましては、12月～1月頃に日本臨床発達心理士会茨城支部のホームページに掲載予定となっております。

ご確認ください。

（文責 中島 亜砂美）